SPECIAL INTERVIEW : NATSUMI UGA

宇賀なつみさんに聞く

文化芸術の魅力

文化芸術は私にとって“おやつ”!?

フリーアナウンサーとして
多忙な日々を送る傍ら、
各地の美術館を巡るなど、
「アート」を楽しんでいる宇賀なつみさん。
子どものころ、練馬で触れた
文化芸術の思い出や、
自身が考える楽しみ方などについて、
語っていただきました。

撮影場所：練馬文化センター大ホール

－本日お越しいただいた練馬文化センターでは、音楽や演劇、能・狂言など様々な公演を行っていますが、練馬文化センターに来たことはありますか？

中学生のときに所属していた吹奏楽部のコンクール会場が練馬文化センターでした。大会に向けて一生懸命練習して、「あー、今年は銀賞だった」「金賞目指したい」みたいな感じで頑張った青春の場所です。
あと、学校の合唱コンクールでも毎年来ていましたね。３年生の時はピアノ伴奏をして、学年で優勝したのはいい思い出です。

－子どものころ、文化芸術に触れる機会は多かったですか？

出かけることが好きな両親だったので、休みの日は必ずどこかに行っていて、美術館にもよく行っていました。
練馬区立美術館も幼いころよく行っていましたね。どちらかというと両親に連れていかれていた感じですけど（笑）。あと、「ちひろ美術館・東京」は私の“デビュー”美術館です。
そんな家庭で育ったので、今でも旅行先では美術館を探してしまいます。アートそのものも好きですが、静かで、凛としていて、みんなが集中している空気感がすごく好きですね。
あと、コンサートやライブにもちょこちょこ行っていました。ステージと客席があって、生演奏っていいな、という感覚はあったと思います。

－小さいころの体験はとても大事なことですね。

生で演奏を聞いたりすると、「こんなに大きな音がでるんだ」「こんなに優しい音色なんだ」という驚きや発見があると思います。ぜひ若いうちからそのような体験ができるといいですよね。
あとは、やっぱり「文化芸術」というと、何か知識がいるんじゃないか、お勉強っぽくなるんじゃないか、という少し難しいイメージになりがちですけど、実はすごく「自由」だし、私の中では「おやつ」みたいな感覚です。生きていくために必要不可欠ではないけれど、それがあると人生が豊かになる、日常にちょっと彩りがでますね。
チョコレートやアイスを食べるぐらいの気持ちでアートを見たり、触れたりできるといいんじゃないかな、と思っています。

－アートを見に行くのは学生のころからですか？

そうですね、子どもの頃からのルーティンみたいになっています。
そんなに高価なものではないですが、例えば、アンティークの家具屋さんや美術館に行った時に「あ、この絵いいな」と思ったら、買うんです。それを飾ると部屋に奥行きが出る感じがします。色彩もそうだし、時代感覚も。小さくてもいいんですけど、絵を１枚飾るだけで生活がすごく豊かになるので、そういうことはしてますね。

－これまでの体験が今の生活に影響を受けていることはありますか？

これまでとにかくシャワーのようにじゃぶじゃぶ浴びていたからこそ、今はあまり「文化芸術」が怖くないというか、ハードルが高いと思っていないんだと思います。
簡単な日記を書いているんですけど、そこに今日見たものや感じたことをちょっとしたイラストで描いたりしています。ホントに下手なんですけど、絵心がある・ないではなくて、描くか・描かない

かだけだと思うんですよ。
別にそれを額に入れて売るわけではないし、自分が自分のために描いているだけだから、なんだっていいわけじゃないですか。
とにかく、たくさんシャワーを浴びてきたことで表現の方法も豊かになっている気がしています。

－アートとの垣根があまりない、日常の中に「アート」がある、という感覚をお持ちなんでしょうね。

ドライフラワーとか、ちょっとした壺や花瓶を見て、「これをあそこに置いて、あれと合わせたい」みたいに考えるだけでもアートなのかもしれません。
あと、ヨーロッパとか海外の美術館に行くと学生は入館無料だったりして、若い人がアートに触れやすい雰囲気があるんですよね。その点は日本はちょっとできてないかな、って思ったりします。

－宇賀さんが考える、文化芸術を楽しむポイントやヒントなどがあれば教えてください。

以前アーティストの方が「作品は完成して世に出したら、あとは見る皆さんの自由なので、『こう見てください』というのは、実はあまりない」とおっしゃっていたのが印象的です。「もっと自由に見ていいんだ」「気軽に楽しんでいいものなんだ」と思えるようになったんですよね。
例えば、ゴッホ展を見に行きます、となったときに、ゴッホの経歴を全部調べて作品をインプットして、これはここがポイントだ、という風に見ることが楽しいと思う人もいるだろうし、ふらふらーと行って、説明も読まずに気になったものだけをじっと見るのがいいと思う人もいる。

「今日は、あれが好きだったな」とか「あの絵に一番惹かれたな」ということだけが何となく体の中に残っていれば、今後、服を選ぶ時や家具を買う時に影響するかもしれないし、何かを決めるときに決断が変わるかもしれない。その程度でいいのかなと思います。
私もプロフィールの「好きなもの」に「アート」って書いていますけど、好きなだけで別に得意なわけではないので。そういう意味で「好きなもの」にしています。

－今後、文化芸術の分野でやってみたいことや企画してみたいことはありますか。

絵はちゃんと習って描いたことがないので描いてみたいですね。趣味でそういうことがいつかできたらいいな、と思っています。なので、簡単なポイントを教えてもらえるワークショップとかあると楽しそうですよね。
あとは、アートの「蚤の市」みたいな感じで、自分で作ったものや家にある絵を交換したり、安く売り買いできるところがあったらいいな、と思います。眠っていたものが使ってもらうことで、生きるアートになりますよね。
シェアしたり、他の人に使ってもらうという方が今の時代にも合ってるし、自分にとってはいらないものでも誰かにとってはお宝かもしれないですから。そこで「つながり」が生まれるのもいいですよね。

－最後に、皆さんに知ってほしい「練馬区の魅力」を教えてください。

練馬区のいいところは、23 区内だけど自然が多く残っているところですね。緑が多くて、空も広くて、畑もたくさんある。
そんな自然が多い練馬区では、「自然×アート」みたいなこともできるだろうし、屋外でのコンサートやワークショップとかも開催しやすそうですよね。まずは場所があること、実施できる環境が整っているということがとても大切ですから。そういう意味では一番可能性を秘めているのではないかと感じています。
あとは、アニメ・漫画のイメージがある「大泉」や学生が多くいる「江古田」など、まちに特色があるところがたくさんあるので、それを活かした展開も期待したいですね。

PROFILE **宇賀 なつみ**（うが・なつみ）

東京都練馬区出身。2009年立教大学社会学部を卒業し、テレビ朝日入社。入社当日に「報道ステーション」気象キャスターとしてデビューする。その後、同番組スポーツキャスターを務め、「グッド！モーニング」「羽鳥慎一モーニングショー」等、情報・バラエティ番組を幅広く担当。2019年に同局を退社しフリーランスとなる。現在は、テレビ朝日系「池上彰のニュースそうだったのか !!」フジテレビ系「土曜はナニする !?」TOKYO FM「SUNDAY'S POST」等、テレビ・ラジオを中心に幅広く活動。初エッセイ【じゆうがたび】（幻冬舎）も、好評発売中。